

## Q-0205 コンクリート舗装では養生期間が必要なため、都市部で適用できますか？

一般に、コンクリート舗装の工事では、所定の強度が得られるまでの養生期間が必要となるので、アスファルト舗装に比べて交通開放までの期間が長くなる。養生期間の目安は、早強ポルトランドセメントを使用する場合で1週間、普通ポルトランドセメントを使用する場合で2週間、高炉セメントを使用する場合で3週間が標準となっている。このため、都市部の道路では、ライフライン工事が頻繁に行われることより、修復しやすいアスファルト舗装が主として用いられてきた。しかしその反面、交通量が多い交差点やバス停などではアスファルト舗装の損傷が大きいため、維持補修工事の少ない、耐久性に優れた舗装が望まれている。

一方、無電柱化など共同溝の設置が全国的に進められている。国土交通省の調査によれば、無電柱化率は、国道・都道府県道で東京23区41%、全国平均15%と年々増加している。また、都市部ほど道路率（面積に対する道路面積の割合）が高く、全国平均1.95%に対して、東京都では8.2%と多くの道路が整備されている。コンクリート舗装は、アスファルト舗装に比べて新設時の工事期間は長くなるが、道路の多い都市部では計画的な交通規制を行って工事を進めることができるので、共同溝が設置された道路には、むしろ耐久性に優れたコンクリート舗装が適しているといえる。道路統計年報によれば、2011年の統計値で東京都には680kmのコンクリート舗装があり、主としてトンネル内や急勾配坂道に既に多く使われてきた。

さらに最近の技術開発により、交通開放までの期間を1日に短縮できる早期交通開放型コンクリート舗装(1DAY PAVE)もNETIS登録されている。また、交差点への適用では、交差点内を4分割して舗設するなど施工上の対応策も検討されている。コンクリート舗装は、使用材料・施工方法・適用箇所などを適切に選択することにより、十分に都市部の舗装へも適用することができる。コンクリート舗装を適用することで、都市部におけるヒートアイランド現象の低減や、路面の照明効率改善による安全対策としての効果も期待される。